

第2回 小山市まちづくり総合交通戦略策定協議会

会議録

日時：平成26年11月28日（金） 15時00分～16時30分

場所：まちなか交流センター おやま～る 研修室1

出席者：（委員）17名出席、2名欠席

（オブザーバー）4名出席、1名欠席

事務局：小山市都市整備部都市計画課

1. 開会

2. 委員長挨拶

3. 議題

～事務局より資料説明～

（「総合交通戦略 目次構成と本日の内容」「まちづくり交通の方向性・施策等」）

～質疑～

（委員A）モータリゼーションや人口減少、高齢化の問題だけでなく、多様な切り口で課題や方向性を分析する必要がある。

（委員長）まず都市の将来像のフレームをおさえた上で、今後、具体的な生活像を詰めていくことになる。大きな方向性としてはコンパクトシティで良いと考える。

（副委員長）小山工専と小山駅間でも耕作放棄地や住宅の乱開発などの問題があり、今後具体的な空間のあり方を考えていく必要がある。一方、トップダウンで都市の方向性を示すことも重要。

（委員B）小山東ニュータウンは将来高齢化が予測され、買い物や医療等のために公共交通などの移動手段が必要になる。また、小山市全体でも若者の居住やまちの魅力向上が必要である。そのための手段が高岳線引込線の有効活用と考えるが、振動や騒音の問題、駅の設置場所等についての具体的な検討も必要。

（委員長）新しいものをつくるのではなく、今あるストックをどう活用するかが鍵になる。空間と時間は有限。機運が高まってきたときに実行に移すべき。そのために、マクロとミクロの視点から検討していく必要がある。高岳引込線の有効活用は、市のパイロットプラン・先行事例として位置付けられるのではないか。地区レベルのまちづくりと連動するように仕掛けていく必要がある。

（委員長）「短期・中期」「長期」の施策は何年以内にどこまで進捗する予定なのか。

- (事務局) 「短期・中期」は10年以内に事業着手し、長期は20～30年後の達成目標である。
- (委員C) 幹線道路網の図にある「広域・都市間連絡・環状機能の道路整備」はどの路線を指しているのか。また、「公共交通と連携する都市内連絡道路整備」は一区間だけか。
- (事務局) 前者は都市計画道路の城東線を指している。後者はバス道路の改築予定のある都市計画道路の小山南通りの一区間のみである。
- (委員D) 今年度この協議会は残り何回開催されるのか。
- (事務局) 2回開催する予定である。施策のプログラムやアクションプラン、来年度以降の組織体制なども議論したい。
- (委員D) まちづくり総合交通戦略の策定後は、どのような検討手順を踏んでいくのか。
- (事務局) 次年度以降の検討スケジュールや内容は、次回議論したいと考えているが、高岳引込線の有効活用等はすぐに設計・工事するのではなく、次年度以降も検討を継続して長期スパンで考えていく。
- (委員D) ここに参加している委員の責任は重要。赤字になると税金の投入も必要になる。今後、高岳引込線の有効活用を検討することがよいか議論していきたい。
- (委員長) 今年度は、仮に高岳引込線を有効活用して新交通システムを導入したらどのような問題が考えられるかについて、議論できるとよい。適切なシステムや車両は何か。新しければよいというわけではない。まちづくりと一体で地元を巻き込まないと交通単独では実現できない。赤字見込みだが政策導入する場合もある。
- (オガサハ-A) 国としてはまちづくりと公共交通を結びつけて検討するよう自治体においてほしい。協議会委員の意見を踏まえて検討を進めてほしい。
- (オガサハ-B) 一般論としては鉄軌道系の新交通システムは必要だが、導入の目的と照らし合わせてメリットとデメリットを含めて議論していく必要がある。
- (委員E) 羽川地区には新駅構想の話があるが、周辺は市街化調整区域であり線引きの見直しも検討していく必要がある。一方で、人口が減少するなかでその必要があるのかという問題もある。栗宮地区も同じような課題がある。
- (委員長) 線引きの話もあるが、今あるものを有効活用していくことを議論した方がいい。その使い方を議論する中で、地区のまちづくりも見えてくる。ソフト施策との連携が重要になる。交通だけで進めてはいけない。各地区のまちづくりニーズと交通政策を結び付けられるかが課題。
- (委員B) 高岳引込線を有効活用した新交通システムの導入にあたっては、どういう問題がありどんな利点があるかを議論した上で、検討を進めるべきか否かを検討したい。
- (事務局) 今年度は、全体の交通体系のなかで高岳引込線を有効活用した新交通システムの検討の必要性を位置付けられるとよい。その上で、次年度以降に需要予測や事業費の試算などを行っていく。
- (委員長) 導入の課題やメリット・デメリットなどを整理した方がよい。次回の協議会では何を議論する予定か。

- (事務局) 次回の協議会は重点施策を議論したい。
- (事務局) 新たな交通手段として、まちづくりと一体となって新交通システムの導入を検討していく必要があるのではないか。その一つの方法として、既存ストックである高岳引込線の活用を位置づけたい。参入する民間事業者がいるか否かも検討していく必要があり、事業化するか否かは別問題。
- (委員C) 次回の協議会では委員の意見に対する事務局の見解を冒頭で示してほしい。この協議会は、アクションプログラムを定める会議と認識しているが、今後の検討スケジュールなどを示してほしい。
- (事務局) 次回の協議会で事務局見解を提示する。

以上